

5. 今月のトピックス 「イネ紋枯病について」

◆イネ紋枯病を引き起こす病原菌◆

カビの仲間である糸状菌(担子菌類)(学名: *Thanatephorus cucumeris* (Frank) Donk) が引き起こす病害です。イネ以外では、トウモロコシ、ダイズ、トマト、ナス、イネ科雑草やカヤツリグサ科雑草等に感染し、土中に数年間残ることがあります。

◆病徴と被害◆



図. 発病状況

水際に近い部位で発生し、進行すると図のように枯れ上がります。その際、直径2mm程度の小さな菌の固まり(菌核)を作ります。この菌核が翌年の感染源になります。

空気伝染はしないので、劇的にまん延することはありません。

◆病原菌の生態と感染経路◆

形成された菌核が、圃場内に落ちて越冬し、感染準備を整えます。

代かきによって菌核が水面に浮上し、田植えが始まると茎に付着することで感染します。

気温 22℃以上、株間湿度 96%以上で発病します。

◆生育適温と発生しやすい条件◆

この菌の生育好適条件は、28～32℃の高温と多湿です。

以下に発生しやすい条件をまとめました。

- 1) 早生、短秆、分げつが多い品種
- 2) 早期、早植え、密植、窒素施用過多、倒伏
- 3) 梅雨期の高温、高温条件の長期化、生育適温は 28～32℃
- 4) 前年の発生が多い時(菌核が多く存在)

◆防除対策◆

耕種的防除法

- 1) 畦畔雑草を除去しましょう。
- 2) 密植を避けましょう。
- 3) 窒素施用過多を避けましょう。
- 4) 倒伏させないような肥培管理を徹底しましょう。

化学的防除法

- 1) 水際の茎に初期発生を確認したら、早めに薬剤散布をしましょう。